



# 新研究科長抱負を語る

## —工学研究科長就任に当たって—

大阪大学大学院工学研究科長

掛 下 知 行

平成 23 年 8 月末から大阪大学大学院工学研究科長に就任いたしましたので、工学部同窓生の皆様にご挨拶を申し述べさせていただきます。

大阪大学工学研究科は、現在を支えるとともに未来を創る様々な工学分野や産業分野を網羅する幅広い領域を教育研究対象とし、さらには各分野における学会を先導する役割を担うとともに、その教育研究を通して産業界へ多大な影響力を与えていることは言うまでもありません。したがって、研究科長はその舵取り役を担う極めて責任の重い職であることを十二分に認識し、工学研究科のより一層の発展ひいては日本の発展に心血を注ぐ覚悟を新たにし、気を引き締めているところです。

工学研究科は上でも述べましたように世界に誇る基礎から応用に至る研究成果を長年にわたり発信し続けている教育研究機関ですが、その最も重要な使命は、「人材育成」です。私自身、材料科学の基礎研究に長年携わってきましたが、教育活動に対してもひと際関心が高く、2005 年 4 月より 5 年間にわたって教育学務室長を務めさせていただきました。その間、工学分野の国際教育プログラムの設置、工学部内での共通教育施設の整備、さらには外国語学部の統合・全学共通教育組織の変革に伴う様々な教育改革において工学研究科の最前線の立場で対応し、教育環境の整備を行ってきました。特にこの 2、3 年は、大阪大学の後期入学試験の対応に注力し、平成 24 年 4 月入学者の入学試験から、後期試験を停止し、前期試験のみに絞って実施することにいたしました。これにより、大学を決める第一段階である前期入学試験時に、大阪大学工学部に是非とも入学したいという将来の有望な人材の確保をはかれることとなります。

しかしながら、人材育成・教育分野において、これから取り組むべき重要課題はまだまだ山積していま

す。例えば、海外への若手人材の派遣をはじめとする教育研究活動のグローバル化や留学生の受け入れ対応、将来の少子化問題にも絡む学部・大学院の定員問題、特に博士課程学生の充足率、その教育課程ならびに修了後の進路の問題等が挙げられます。これら将来に残された課題に対して、これまでの教務関係の諸活動の中で培った数々の経験を活かして取り組みたいと思います。

研究活動面においては、基礎分野から応用分野に至るまで多岐にわたる研究領域の個性を維持・活用するとともに、交錯的新規研究分野の開拓、遂行するために最大限の力が発揮できる柔軟な研究体制の確立に取り組み、世界的な競争力を維持・発展させる魅力的かつ一団となる研究組織の構築に力を注ぎたいと思います。さらに、競争的資金の確保を目指すシステムティックな体制の確立を図りたいと思います。また、共同研究講座に代表される大阪大学の特徴的な産学連携組織とその活動の充実にも力を注いで参ります。

一方、上記の教育および研究環境への支援のための運用経費ならびに体制の整備は、極めて重要な課題です。特に、運営費交付金の削減に対処できる財務環境の安定化、工学研究科の事務組織と各専攻の事務運用体制とのより良い連携の構築、および技術部など教育研究支援機関の一層の充実は、将来を見据えて今取り組むべき課題であると考えます。

平成 16 年 4 月から始まった独立行政法人化に伴い、工学研究科においても研究科長のリーダーシップを重視し、トップダウン式の運営形態が取り入れられ、役員会と教育学務国際室・財務室・運営企画室・社会連携室の設置（当初設置された国際交流室、評価・広報室は平成 23 年 3 月にて廃止）、代議員制度の導入に伴う専攻長会の設置、教員の任期制の導入等が進められてきました。法人化以前の教授会を決定機関とする体

---

---

制は大きく変化し、独法化に伴って導入された上述の諸制度はようやく定常的な体制となりつつあります。しかしながら、この数年、世の中の動きはさらに加速し、さらに本年3月の震災を機に、新たな日本の将来像の設計・構築が求められており、この大きな課題に対応できるよう、組織全般を細部から改めて見直し、より良い組織作りを進める時期に直面していることを強く認識しています。

本年3月の大震災からの日本の復興のためには、工学分野からの支援は不可欠であり、私ども工学研究科に課せられた使命は極めて重大です。特に現在の日本は、今後我が国が向かうべき姿を全世界から問われているターニングポイントにあり、また長期間にわたる

復興対応は避けられそうにありません。

そのためにも、将来にわたってグローバル社会の発展に寄与できる「人材育成」を核に置いた大阪大学工学研究科の充実を目標に掲げ、我が国の将来を牽引できる人材輩出に力を注ぎ、その生き活きとした取り組みが国内外から高く評価され、そのことがより一層の魅力となって、将来を担う若い人たちを引きつける工学部・工学研究科を創りあげたいと思います。

皆さまのご支援・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

---

(学界)

## 平成23年 春の叙勲

No.553 に掲載以降、下記の方の叙勲受章が判明いたしました。  
心よりおよろこび申し上げます。

幸塚 善作 氏 (学 界)

瑞宝中綬章